

「東白川村国保診療所及び老人保健施設建設工事起工式」村長あいさつ

本日ここに、東白川村医療福祉ゾーン整備事業の第一次事業として、「東白川村国保診療所及び老人保健施設」の建設工事の起工式を挙行致しましたところ、猛暑の中、多数の皆様にご出席を賜りましたこと厚くお礼申し上げます。

さて、本工事は東白川村にとって永年の懸案事項であり多くの歳月と労力をかけて計画してきたものであります。高齢者比率 40%を超えています本村の高齢者の皆様の切なる要望として、老人施設の建設についての「請願」が出されましたのは平成 26 年でございます。これを受けて東白川村社会福祉医療施設等整備基金を平成 26 年 3 月に設置、その後、私が就任早々ではございましたが、庁内に「東白川村の老人施設を考えるプロジェクトチーム」を設置し、検討を開始しました。このプロジェクトチームからは、現在の診療所とは別の地に、老朽化した介護老人保健施設の更新とこれに併設した診療所の建設が望ましいという内容の答申がされました。

これを受けて早速、建設用地の確保に入り、名古屋商科大学長の栗本様にお願いを致しましたところ、村の保健福祉、医療の実情について大変なご理解とご協力をいただき、この五加の地、セミナーハウス跡地、5,700 坪をご寄付いただくことができました。このことにつきましては村民を代表して深く感謝申し上げますものであり、この地が栗本学園発祥の地であることの顕彰と将来に亘り医療福祉ゾーンとして計画的に整備し、活用してまいる事をお約束いたします。

その後、庁内プロジェクトチームの答申を受けて、整備計画を樹立するにあたり、福祉関係の大学の先生や老人施設の経営者など村内外の有識者の皆さんに専門委員をお願いし、村の将来においてこの分野の「あるべき姿」についてご検討いただきました。その結果、先ほど申し上げました庁内プロジェクトチームの答申内容を指示するというご結論を頂きましたので、平成 28 年 12 月に東白川村医療福祉ゾーン整備計画を策定し、議会の承認も頂きました。

その後、村内各地での集落座談会での説明、地元委員による「建設委員会、村議会での検討、診療所長をチーフに庁内での度重なる議論を重ねて平成 28 年度に基本設計を策定、平成 29 年度の実設計を経て本日の起工式を迎えることができました。

これもひとえに用地を御寄付いただきました名古屋商科大学様、整備計画の樹立に尽力をいただきました専門委員の皆様、建設委員の皆様、そして重要な決定毎に真摯な議論と助言を頂いた村議会議員の皆様、地元五加区の皆様、関係職員各位のご努力、ご尽力の賜物でありここに深く感謝申し上げる次第であります。

この医療福祉ゾーン整備事業は単なる施設老朽化による建替えではなく、少子高齢化、超人口減少時代に向かう東白川村にあって、その流れに歯止めをかけ、東白川村民と周辺地域の皆様の健康と福祉を護る代え難い財産を作る事業であります。

設計、監理をお願いします株式会社岬建築事務所様、工事を受注されました中島・曙・立保特定建設工事共同企業体の皆様、そして附属工事や関連工事を担っていただく有限会社ナカシマ様、有限会社新田建設様におかれましてはその卓越した技術と熱意でもって無事故で本工事並びに関連工事の立派な完成を目指していただきますようお願い申し上げます。また、工事期間中は地元の皆様には何かと御迷惑をお掛けいたすこととは存じますが、ご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

結びに、本日もご参集の皆様のご健勝と、皆さまと共に本工事の無事故による完成を祈願いたしまして私のご挨拶とします。

平成 30 年 8 月 7 日

東白川村長 今井俊郎